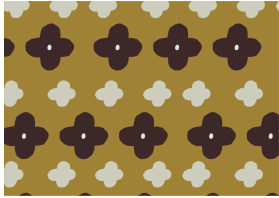
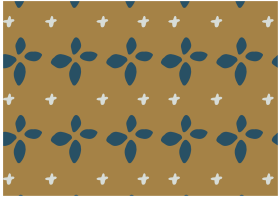
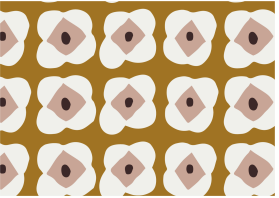
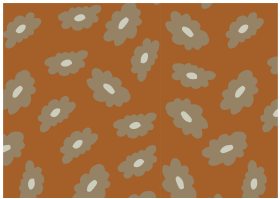
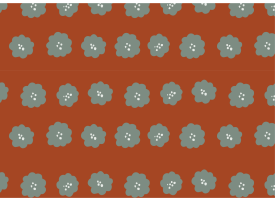
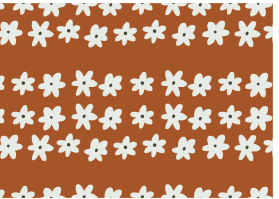
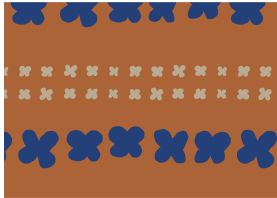
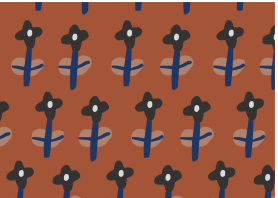
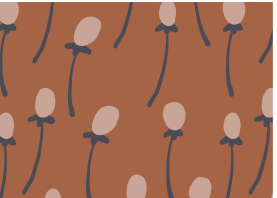
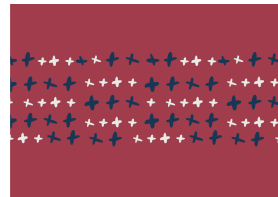
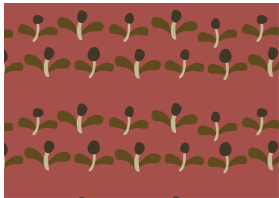
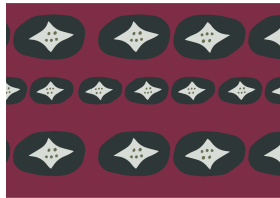
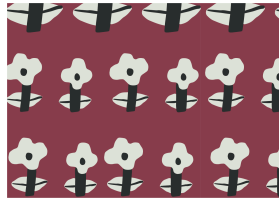
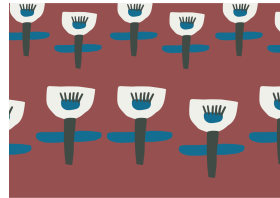
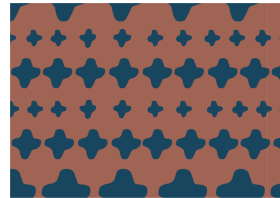
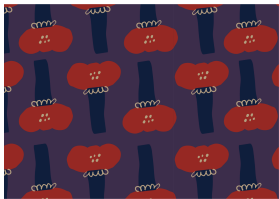
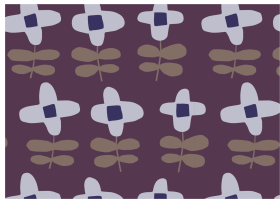
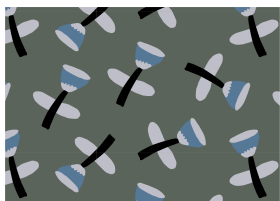
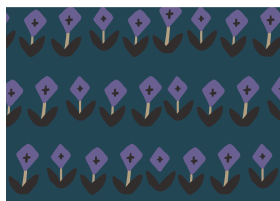
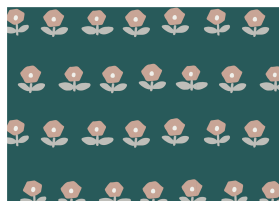
	
1.周詳 短箋不足記載你的大海 於是用密林的辭海擁簇 把感官 氣候 風水都包攬 詳細 便箋には君の広大さを載せきれず そこで密林の言葉で包み込む 感覚 氣候 風水のすべてを	2.溫良 奶茶 貓咪 小憩發懶 蘊光窗櫺 淺嚙幸福 把繁歡萬念的箏 放線奏然 揚長遠觀 穗和 ミルクティー、猫、しばしくつろぎを 窓の格子に差し込む光 ささやかな幸せを 繁雑さと嬉しさの雑念を乗せた風を 手に持った糸が飛んでいくのを眺めた	3.凜然 無止謹慎起 所謂道德 砌成 堅不可摧的城 自我監督 漫漫工程 臆測之外 都是本分 *態度正直、人格嚴正 謹直 いわゆる道德をいつまでも注意深く レングで築かれた堅固なお城 自己管理は永々しいプロセス 憶測以外はすべて自分自身の役目	4.知足 苦茶餘韻 是微酸甘香滋味 走針旋律 是預期之外的美 叱吒雷雨 是貫徹心智的泉 一圈圈無奈的錯覺 也能盛下光 端出感言 知足 苦茶の余韻はほのかに酸味と甘みで 音がはずれた旋律は予想外の美しさで 叱咤する雷雨は心智の泉を貫いて 無力感の連鎖を錯覚させて 盛り付けた光を感情として発して	5.有幸 呼口氣 吃口冰 看部電影 索然道理 漫漫黑夜巷弄裡 紛紛叨叨走間隙 吞下酒精 白霧微醺 我成了星系 酣飛 你成了磁極 躍起 幸運 一息ついてアイスを頬張って 映画を見てつまらない理屈を並べ 漫々とした夜が深い 小道の中で 様々な声が路地へ吸い込まれて お酒を含んで白い霧が立ち込める 私は銀河になって騒ぎ立てる あなたは磁極になって飛び跳ねる	6.朗朗 明月朗朗 將你入懷 躺臥月亮臂彎 喫睡 懸暎日光 脊背仰天 就在那恍恍宕宕日陽低垂 我洗下記憶體裡面 那些夢的詩篇 *宕宕①形容清晰響亮的聲音 ②形容明亮 宕宕:拖延延遲 朗朗 月が輝きあなたを抱きしめる 三日月の中で横になり静かに眠る 日に晒し背中を天に仰ぐ ぼんやりと明るい日が沈む 私はメモリーを洗い流す あれらの夢の詩篇を

					
7.若愚 泡在世界的 高智商 無視他人的枷 未知的傷 與滿載歲月無多的慌張 動脈裡 百川寒愴 且看我平庸 瀟倣 愚か 世界に浸る高頭脳が 他人の束縛や未知の傷を見透かし 時の縛りの中での焦りが 動脈に流れる様々な負の感情が この平凡で愚かな無頓着な私を見よ	8.簡潔 勺起醇醇甘香の梅酒 掛起奕奕飄揚の布幟 撐起繁星燦燦の星光 撒下果籽 種下花 簡潔 芳醇な甘さの梅酒を すくい上げ 颯爽と舞い上がる旗を掲げ 輝く星々の光を支えて 果実の種を蒔いて花を植える	9.唯心 攀附在己念上 觀望萬事萬物的臉 賴在心念上俯瞰明天 我們終究喜歡自己的視野 觀宇宙 萬念自心 改變 コソコソ 己の念に執着し 万事万物の顔を傍観し 心の念に頼り明日を俯瞰する 結局私たちは自分自身の視野が好き 宇宙を見ると全ての自心が変わる	10.恬淡 吃一口粥 著衣無華 掛一架裳 別來無恙 瞑思冥想 身心無暇 淡泊 粥を含んで華やかな服を身に纏うことなく 袈裟をかけて離れてからも無事 瞑想をして身心に瑕疵はなく	11.一心 承認 偏執的靈魂 滿載 雋永的星辰 手執一穗 便是永恒 * 一心無二, 蘇格拉底 麥穗 一心 偏執なる魂を認めて 永遠の星々に満ち溢れて 一穗を手にする事は永遠である	12.不朽 悄然隱密的 黯然未知 卻是遺落雙眼的 萬籟鑽石 恣意追 恣意飛 飛向星夜 成皎月 * 永存(多用於精神、事業等) 不朽 静かに隠された暗い未知の中で それは失った双眼の万籟のダイヤモンドを 自由に追いかけて自由に飛び回って 星夜へ飛んで皎月となる
					
13.自憐	14.三昧	15.謙和	16.幻生	17.愜意	18.意識

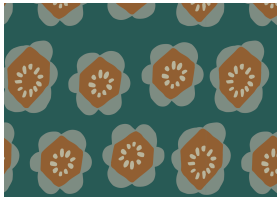
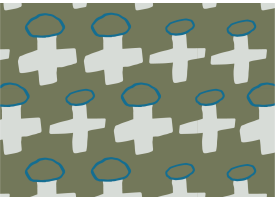
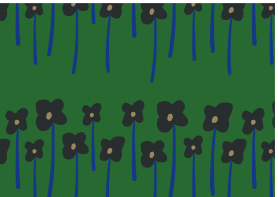
走在迢迢的軌道 總會偶爾摔個跤 記得膝蓋要擦藥 心的傷口要治療 * 自我憐憫、疼惜 哀れみ 長く終わりが見えな い道を歩き いつも偶然つまずい て 膝に薬を塗ることを 忘れずに 心の傷も癒してあげ て	一宿長出萬領山の溫 柔 歲月無多索性知仇不 究 平行之後 願我心自 由 * 止息雜念、三即多 三昧 一夜の間に萬領山の 優しさが芽生え 時の経過は少なく敵 意を無視して 平行線で心が自由で あると願う	解構過去の実績 化身四散的課題 浪濤一瞬高 雨點鼓聲下 自恃的都是一點沙 謙虛 過去の実績を分解し 散り散りになる問題と 化す 瞬く間に押し寄せる 波濤が 雨粒が響く音色の下 で 自己陶醉は砂の一粒 に過ぎない	向左倒臥在半導體時 光機 向右倒臥在纍纍石榴 之間 物質世界近在遠方 遠在眼前 揮揮手揮揮手 不怨 不懟 * 幻生不幻死 幻のような幻 半導体のタイムマシ ンの中で左に横たわ り 重なり合うザクロの間 で右に横たわり 物質世界は近くて遠 い、遠い目の前で 手を振り、手を振り、 怨みも憂いもなく	河道裡數星星 閃閃 航行成癮 幾季落葉萋萋 徐徐 步履如曲 哪怕迷失或錯過 都漾成詩意的你 のんびり 川で星を数えて輝く 航海に夢中になる 曲のようなゆっくりな リズムで 季節の落ち葉が移り 変わり 迷いや誤った出会い さえも 詩情に満ちた君にな る	光陰穿梭 懸擱著穹 蒼不語 安然沈浸 對映著喧 市畸零 平靜將你 伴譜成河 在淺意識裡對話成 雲隙的天梯 意識 時が通り過ぎて青空 は無言でぶら下がり 平穩に浸って喧騒と 孤独が映し出され 静けさが君を伴奏し て川となる 潜在意識の中で対話 して雲の隙間の階段 となる
					
19.向善 一磚一瓦攬上肩 辛酸乾澀也甘甜 善をなす 一つ一つの煉瓦を肩 に抱えて 苦勞と辛さも甘美なも のとなる	20.締創 一瀉又一瀉的泉 一甕又一甕的甜 クリエイト 続々と流れ出す泉 続々と湧き出す壺	21.我空 萬事一粒沙 收起我 執的念 遠離密叢的 燈幌綠 軌後 我們都是光體 遙上 乾淨	22.致志 吸收萬分波瀾的消波 塊 在灰稠實調裡解釋情 懷 志し	23.知性 感性也理性 直觀也邏輯 悄然沓至 飽和結晶 知性 感性も理性も 直感もロジックも	24.樸質 誠實是種固執 真實是種本事 素朴 誠實は固執の一種 真實は能力なり

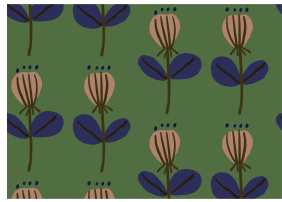
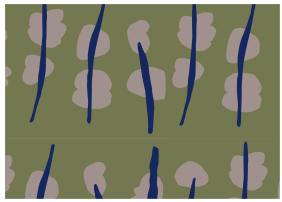
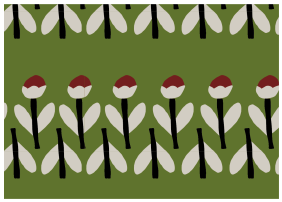
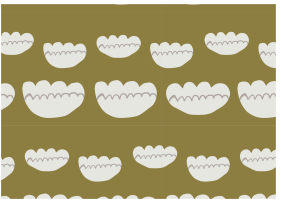
		虚空 万事一粒の砂は私の 執着した念を収め 密集したネオン街を 遠ざけた後に 私たちは裸体で清ら かに高く昇る	波瀾万丈を吸収する テトラポッド 灰色の濃密な中で心 情を解釈する	静かに湧いてくる飽 和結晶	
					
25. 能量 纏縛不斷 處之泰然 由内而外 熱量發散 * 我覺得能量可以是由内而外的發散, 但如果是更高一點的層次, 我覺得反而是可以去消化外力進來的有些事情, 因為由内而外的能量可能相對簡單, 但是要分解有外而内的能量, 其實是要更大的。 エネルギー 絶えず纏縛されるが 平常心で対処 内から外へ熱量が放たれる	26. 和顔 當心 牽絆與怨懟夾雜予你 當心 雜訊不明或訊號不良 沒有望遠鏡放大鏡能看清 使心盤上的不明朗濃縮成一片烏雲 撥雲見日 挑水滌身心盤若淨 耳聰目明 和顔 心に引っ掛かるのは嫉妬と不満に氣をつけて 混ざり合うノイズや悪いシグナルに氣をつけて たとえ望遠鏡や拡大鏡がなくても	27. 溫蘊 知己知彼的距離 低語緩緩攀爬至頂 融合共識相吐成絲 纏成一片花海意識 * 溫和蘊含, 可形容不同物質間的融合。 融合 彼と己の距離を知り ささやきはゆっくりと登ってゆく 共感が糸となって結びつき 花海の意識となる	28. 平衡 制衡著兩端的秤 始終躺在一端窺探 就此不平衡的狀態 抑揚頓挫而浪漫 バランス 天秤のバランスを取りながら ずっと片側に横たわって様子を伺う このアンバランスな状態が 抑揚がありロマンチックになる	29. 入微 萬斑香氛 指尖盤旋 膽言絮語 排列成隊 鋪衍揉捏 絲線成絹 * 此篇以釀酒比喻對細節的在乎。因為魔鬼藏在每個細節, 做好最小的準備, 等待與被製做成最大的美。 神は細部に宿る 様々な香りが指先に舞い 勇氣の言葉や囁きが並び隊となる 広がり揉み込み、糸でも絹となる	30. 搖曳 廢而廢晃而晃 無星月夜 輾轉虛實側臉 灰白裊煙 晃燈酒影燭光 癱在今天 揺られて 捨て去り彷徨い 星も月もない夜 嘘と真実の側面がねじ 灰白の煙 揺れる灯り、酒の影、燭火の光 今日に身を委ねる

	心の不明瞭さを一つの黒雲に凝縮させ雲を払って日が見え、水を汲んで身を清める 心が清らかになれば、見聞きもはっきりとする				
					
31.語摺 掏出心肺 鮮潤紅熾 微言細語 徬徨語滯 呆然可嗤 無語漬詞 可卻是 卻是 真誠稚摺 言の真摯さ 腹を割って鮮やかに赤く 微かな言葉でさまよい 愚かでばかばかしくて言葉にならず でもね、でもね、それは真摯で真心だ	32.悠然 萬事萬物的顛簸 不慌不徐稠糯心 悠然 万事万物が揺れ動き 急がず焦らず柔らかな心	33.憫人 萬蒼萬悲 諸於大地 嘯天喊地 篡滅生命 孜念在心 情連無息 憐れむ人 万の青く哀しむ大地に於て 天を嘯き地を喚いて 命を奪い 心に思いを馳せて想いが止まらない	34.和煦 櫺櫺泛光灑雙頬 娓娓相嘆揚起痴 枝朽蔓蔓の百里香 暖陽微漾的自畫像 * 陽光祥和的樣子 ポカポカ 窓からのきらめきは頬に広がり 長話しの中でかさぶたに触れられて 茂る枝葉の百里香が陽だまりに微かに揺れる自画像	35.自適 天外的眼 總千篇一律告知盲點 但那凹陷的都是地景 尚未完整的都是作品 外在的蘚 就是此刻好風景 自適 天外の目はいつも同じ盲点を教えてくれる しかし、凹んでいるのはすべて地景だ 完全ではないモノはすべて作品だ 外にある苔は素敵な風景だ	36.純粹 發呆 呼吸 耍耍無賴 翩翩 侃侃 意興闌珊 一攤溫柔的臥倒在水一樣的空白 純粹 ぼんやりと息をしてダラダラする 軽やかに落ち着いて 気に掛けず 優しく一面に広がった水のような透明さ

					
37.孜孜 放肆或濫調 千山萬水 果決或猶豫 夙夜匪懈 * 勤奮不懈 コソコソ 気ままさ或いはありきたり、千山万水 きっぱり或いは躊躇、 四六時中怠けない	38.洞見 浮於已解的話語 不降於字籤寓意 初芽似無知 實驗性探知 讓你 近一步凝視 洞察 解釈済みの言葉が浮かび 単語の意味に囚われず 新芽は無知のよう 実験的な探求 近づいて凝視してもらう	39.超己 致志在天高無限 續航無涯里程碑 遠觀云云 眾聲鼎沸 雋永成 最燦的美 己を超え 志は無限の高みへ 終わりのない航海の マイルストーン 多くの意見を遠い場所から眺める 多くの人々の声が響き渡っている 永遠に続く最も輝かしい美しさ	40.一念 聚攏萬山的愛 灌入 心室 堆疊繁密的歌 滿入 心房 油碧鏤花 念念徜徉 一念 万山に集まる愛が心室に注がれ 密に重ねられた歌が 心房に満ち 華やかな花紋が一つ一つぶらぶら	41.做夢 將靈感 裝在種籽裡 將過程 放在槎枒裡 將夢想 存在花苞裡 伸藤吐鬚 攀山越嶺 日曝陣雨神木下 釋放芬芳萬里 夢を見る インスピレーションを種に詰め込み プロセスをゴツゴツした枝の中に入れる 夢をつぼみの中へ納める ツタを伸ばして気根を吐きながら山を越える 日曝し、雨、御神木の下で香りを遠くに放つ	42.靜慮 漫天竄逃 逃往回憶 坦白有刺 針針札心 而將思慮揉進紙漿裡 風乾成一片落葉 在土裡慢慢解離 想いはかる 空を駆け抜けて思い出に逃げる 素直さには棘があって心をチクチク そして思考を紙パルプに揉み込み 風に乾かされて一枚の落ち葉となる 土の中でゆっくりと分解されていく
					

43. 諒人 聽喧外 安心溫蘊 看異己 譜曲無燠 集體呼嘯不能移 諒這酹白光如炬 仍侍君如賓 客氣客氣 人に寛容 騒音を聞きながら心が安らかに包まれる 異なる者を見つめて煙を立てずに旋律を奏でる 集団の叫びは動かすことができず たいまつのように白く光る寛容さ それでも君に客として仕え、丁重に丁重に	44. 不拘 將故事放進 丹心碧血 笑謔也放任 涕泗流漣 在生命迴圈裡 前低懸在谷 後凜凜高飛 拘らない 物語を真心の深紅の中へ 嘲笑れてもほっとけ、涙が滝のように出て も 生命の連鎖が起こる中で 最初は谷底に垂れ下がり、後に堂々と高く舞う	45. 了了 胚子 在認知之前 躺在溫熱甕盤等待分食 孩子 在萬物之前 躺在天地之間等待故事 學子 在學理之前 坐在文字之間探索未知 傻子 在積蓄之前 站在熱熱岔路分析局勢 孤子 在揮別之前 浸在江流長江裡漸懂事 了了 粘土 認識の前に、温かなろくろの中で分離を待つ 子供 万物の前に、天と地の間で物語を待つ 学生 学問の前に、文字の間で未知を探索する 馬鹿 貯金の前に、熱い別れ道で情勢を分析する 孤児 離別の前に、長江に浸かり徐々に物心がつく	46. 自癒 有形無形 愛自己 有心無心 愛自己 意識未果的 要送離 愛自己 多一點自己 自癒 形ある無し、自分を愛する 心ある無し、自分を愛する 果たせなかった意識にバイバイ 自分を愛し、自分をもっと	47. 無常 整裝遠門之際傾盆大雨 美夢之間突有雷鳴 親暱擁抱之後沒有音訊 生活是驚喜 化重為輕 望眼欲不穿 有趣有趣 儂い 身支度を整えて遠出の際、大雨が降り注ぐ 幸せな夢の中で、突如ゴロゴロと響く 親密なハグの後、連絡が途絶える 生活はサプライズ、重さを軽さにチェンジ 深い期待はせず、実にオモシロイ	48. 行蘊 火舞成歌 所見焦土炙熱 情深成花 熟果落雨成河 逆流於一識又一識的城 順流於一世又一世的樂 我心是乘載氤氳的運河 它可以被譯為「在某種條件狀況下才存在的事物」、「被決定的」、「被製造出來的」、「因為某種條件狀況而形成的」 心執取順境時，就生起喜悅的情緒；當執取不順境時，就生起不喜歡、厭惡的感情，於是，有了喜怒哀樂、七情六慾。這種種內心的造作，叫做「行蘊」。 五蘊 火的舞が歌となり、焦土は見渡す限り灼熱だ 情が深まり花となり、熟した果実が川となる 一基一基のお城に逆流し
---	--	---	---	--	---

					一世一世の幸せに順流し 私が心は陰陽を乗せた運河だ
					
49.調伏 降服豊軟的謊 揉搓糾結的痂 鞭辟入裡有傷 時間分流 驅走千瘡 都遺忘 過了整點 不亢不響 都遺忘 調伏 柔らかな嘘に従い 絡みつくかさぶたを 揉み 鋭く切り込んだ中に 傷がある 時間が分岐し、数多 の傷跡を追ひ払い、 全て忘れる 正時が過ぎ去り、た だ静かに、全て忘れ る	50.如常 昏光晚霞 歲月如蒼 奕草肥生 攀藤開花 路上的斑馬 熙熙攘 攘 凌風喧嘩 蔓延無恙 日常 薄明かりの夕暮れ、 時の流れは雲のよう 生命に満ちた草が茂 り、つるを伸ばし花を 咲かす 横断歩道で賑やかに 行き交う 風を凌ぎ大声で無事 が広がる	51.樸拙 彩調降坦於地平面 萬物包羅吸吐之間 一淺薄得無以名狀 卻薄透得自然坦蕩 素朴 彩りが地平線に降り て 万物を包み込み、 吸って吐いて 名前がないぐらい浅く て薄い存在 だが、透けてナチュ ラルで堂々と	52.思辨 微鹹 以調味 微甜 以提香 微酸 以提鮮 腦水翻騰成濤前 世事片刻總生怯 思弁 ほんのり塩で味付け し ほんのり甘さで香りを 引き立て ほんのり酸味で鮮度 を引き出し 頭の中で大波となっ て荒れる前に 世の中は片時でも臆 病になる	53.不迭 生而忐忑 才得以孵化 生而矛盾 才得以產下 生而有畏 才得以翱翔 とどまらず 生まれつきの不安、 そのおかげで孵化す る 生まれつきの矛盾、 そのおかげで産み落 とす 生まれつきの恐れ、 そのおかげで飛翔す る	54.出離 站在平行寬闊場域 澈涼的光環繞你心 渺存在塵埃的嘆衰 終將隨之遠離 離別 広々とした領域に立 ち 清々しい光が君の心 を包み込み 塵の中に存在する僅 かなため息 最後は遠くへ去って いく

					
55.漫漫 日晷在水裡盪漾 淋漓成簡練的光 直直曬上低語的自畫 像 那無體的人就重構成 塔 豎成一把銀色外牆 通往觸不可及的 遠 方 果てしない 時計が水に揺られ 波紋は簡潔な光に変 わり 真っ直ぐに焼かれる 囁きの自画像に 実体のない人は再構 築され塔になる 銀色の外壁として聳 え立つ 手の届かぬ遠い場所 へ	56.謹言 說話不哆嗦 沈浸原 始初衷 腦水不受控 浸淫思 想黑洞 諾大的簇擁 縷花全 開的夢 話太多 便是一陣風 口を慎む 話をシンプルに、初 心に浸かる 脳が制御不能で、思 考のブラックホールに 嵌る 多大な支えに囲ま れ、蕾が満開する夢 を 話が多すぎると、ただ 一陣の風となる	57.不迫 欣賞世界的刺 放空靈魂的洞 拾起熠熠緋語 打包 帶走 焦らず 世界の棘を鑑賞し 魂を空っぽにした穴 輝く噂を拾い上げて 包んで持ち帰る	58.心平 我是一縷 輕煙裊裊 來了一陣輕風也無所 畏 仰著頂上的天 長成 垂直線 孜意游漫 孱弱卻無 限 心穏やかに 私は一条の煙で軽く たなびき そよ風が吹いても畏 れることなく 天を見上げて垂直線 となる のんびりと漂い弱々 しいが無限である	59.自渡 不對軌總在春光明媚 在喜劇世間的影音裡 一笑置之走到完結篇 自己研磨 ずれは常に風光明媚 の中にある コメディーの世界の 映像の中で 一笑に付して終幕ま で歩む	60.閑逸 甜甜恬恬 靜曬暖陽 曩曩常務 徐徐朗朗 ゆったり 甘美な安らぎで、静 かに日向ぼっこ 重々しい日常が徐々 に朗々